



Koryo 陵 雲 High School

〒031-0011 青森県八戸市田向二丁目2番6号 / 電話 0178-44-3866 / FAX 0178-43-9077
http://kouryo-high-school.com / メール kouryo@chibagakuen.ac.jp

校内各種表彰

- 《皆勤賞》
 1年 安部 秀麻 (大館中学校出身)
 岩沢 菜々子 (鮫中学校出身)
 梅内 拓真 (名川中学校出身)
 大下 徳美 (名川中学校出身)
 鈴木 紗良 (大館中学校出身)
 杉本 紗良 (階上中学校出身)
 馬場 慈侑生 (下長中学校出身)
 類家 弥弥 (第一中学校出身)
 石藤 風紗 (根城中学校出身)
 石和 大 (東中学校出身)
 川村 歩愛 (第三中学校出身)
 北出 和 (さいたま市立植竹中学校出身)
 栗橋 美妃 (第一中学校出身)
 境藤 南 (湊中学校出身)
 齋藤 太 (北稜中学校出身)
 坂本 航大 (名川中学校出身)
 佐藤 大輝 (三戸中学校出身)
 島守 春輝 (三戸中学校出身)
 清水 李渚 (第一中学校出身)
 清大 智 (第一中学校出身)
 林大 音 (三条中学校出身)
 向大 智 (第一中学校出身)
 村上 珠音 (第一中学校出身)
 吉田 光弥 (根城中学校出身)
 和田 大勢 (江陽中学校出身)
 和光 大勢 (江陽中学校出身)
- 《精勤賞》
 1年 淡路 大空 (第三中学校出身)
 石藤 佑季 (根城中学校出身)
 大村 若菜 (鮫中学校出身)
 小笠原 也 (市川中学校出身)
 川守田 龍杏 (第一中学校出身)
 久保市 稜 (江陽中学校出身)
 鳥谷 斗 (長者中学校出身)
 福島 鳳 (下長中学校出身)
 八木田 咲 (北稜中学校出身)
 伊藤 大樹 (第三中学校出身)
 上ノ平 純可 (白山台中学校出身)
 川畑 純斗 (北稜中学校出身)
 坂上 海斗 (三戸中学校出身)
 佐々木 琉斗 (三戸中学校出身)
 若本 京良 (第一中学校出身)
- 《英語検定》
 3級
 石藤 風紗 (根城中学校出身)
 霞 瑠菜 (第一中学校出身)
 小島 智也 (木ノ下中学校出身)
 村上 琢弥 (第一中学校出身)

第45回卒業証書授与式

3月1日(月)、第45回卒業証書授与式が本校体育館にて挙行された。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、出席者を卒業生、保護者、教員に限定し厳かに執り行われた。昨年度同様国歌、校歌はピアノ演奏のみとし、理事長告示を行わないなど時間を短縮しての実施となった。卒業証書は、各クラスの代表者のみに授与された。続く式辞の中で校長先生は、本校の創設者である千葉富江先生が愛したタルマの精神「七転八起」を挙げ、何事も諦めずに努力することの大切さを述べた。また、孔子の説いた「恕・思いやりの心」を持つ温かい人であること、今日の目を迎えられたのも家族の皆様はじめ多くの方々の支えがあったとのこと、



※クリアボードを使用しています



感謝の気持ちを常に忘れずに



感謝の気持ちを常に持って新しい道に進んで下さい」と卒業生に向けて最後の言葉が贈られた。在校生代表として出席した生徒会長の石輪慶次君(2年・三条中学校出身)は、これまでの思い出を語り、一緒に過ごした学び舎を巣立つ卒業生に「私たちに向陵を任せて自分の道を歩んで下さい」と送辞を述べた。卒業生代表として答辞を務めた関桃香さん(3年・道仏中学校出身)は、高校生活を振り返るとともにコロナ禍となった最終学年の学校生活を日々大切に過ごしたことを語ってくれた。そして、家族へ感謝の気持ちを伝えた。式後には、保護者から先生方に、卒業生から家族に花束が手渡され、会場は温かい雰囲気包まれた。恒例の送り出しでは、保護者と教員が通路を囲み卒業生と高校生活最後の交流を楽しんだ。涙する者もあったが、彼らの笑顔、晴れやかな表情はマスク越しでも分かった。

私が三年生を身近に感じる事ができたのは、生徒会活動です。学校の頃に挫折した経験のある私にとっては、自分が本場に務まるのだからかと自信がない状態でした。しかし、会議や作業中、意見の相違があり、私なら引きずってしまうような所でも、お互いの意見を尊重し、作業をされていました。私は、協力することはこういうことなのだ学びました。

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心からお祝い申し上げます。冬の厳しい寒さも和らぎ、徐々に春の暖かさが感じられるようになりました。それと同時に先輩方との暖かな日々がよみがえります。私たちが入学したばかりの頃は、この学校の先生や先輩方とうまく話せるのだろうかという不安を抱えながら生活していましたが、先輩方はそんな私たちを暖かく迎え入れて下さいました。そして、チャレンジ講座で初めて先輩方と一緒に活動したとき、楽しそうに活動している姿や、率先して教えあっている姿を肌で感じ、向陵高校に入っ

私に三階は、部活動や移動教室の時に通るとどこか寂しく、物足りなさを感じています。

私が三年生を身近に感じる事ができたのは、生徒会活動です。学校の頃に挫折した経験のある私にとっては、自分が本場に務まるのだからかと自信がない状態でした。しかし、会議や作業中、意見の相違があり、私なら引きずってしまうような所でも、お互いの意見を尊重し、作業をされていました。私は、協力することはこういうことなのだ学びました。

コロナ禍での実施となった三送会や文化祭のリハーサルでは、思うように事が運ばず、準備が不十分な状態で本番を迎えることとなりました。しかし、先輩方は本番前日まで妥協せず、必死で修正や準備をされました。その姿を見て私は、学校の皆のためにという強い思いがあるから、様々な状況を考えることができるのだと気付きました。

このように、多くの行事を通して私は、先輩の思いやりの心が学校を包んでくれたのだと感じています。他人のことを自分のことと思えるから助け合えることも、励ましあうことも自然にできるのだと思えました。そしてそれは決して一人ではなく、仲間がいたからこそ成せるのだと学びました。

さらに、部活動においても私たち後輩への指導だけでなく、自分自身が目指している目標のためにも努力されていました。その後ろ姿で私たちに道を示していただいたように感じています。本当にありがとうございます。

先輩方から教わったことを胸に刻み、より良い学校生活を送られるように尽力します。向陵高校のことは私たちに任せて、先輩方は安心して自分の道を歩んで下さい。しかし、その道の途中で、今の私には想像がつかないほどの大きな壁にぶつかるとは思いません。ですが、私たちに道を示してくださった先輩方なら、きっとその壁を乗り越え、自分の将来のために前進できると思います。

最後に、卒業生の皆さまのご健勝とさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。送辞とさせていただきます。

令和三年三月一日
在校生代表 石輪 慶次

私に三階は、部活動や移動教室の時に通るとどこか寂しく、物足りなさを感じています。

私が三年生を身近に感じる事ができたのは、生徒会活動です。学校の頃に挫折した経験のある私にとっては、自分が本場に務まるのだからかと自信がない状態でした。しかし、会議や作業中、意見の相違があり、私なら引きずってしまうような所でも、お互いの意見を尊重し、作業をされていました。私は、協力することはこういうことなのだ学びました。

コロナ禍での実施となった三送会や文化祭のリハーサルでは、思うように事が運ばず、準備が不十分な状態で本番を迎えることとなりました。しかし、先輩方は本番前日まで妥協せず、必死で修正や準備をされました。その姿を見て私は、学校の皆のためにという強い思いがあるから、様々な状況を考えることができるのだと気付きました。

このように、多くの行事を通して私は、先輩の思いやりの心が学校を包んでくれたのだと感じています。他人のことを自分のことと思えるから助け合えることも、励ましあうことも自然にできるのだと思えました。そしてそれは決して一人ではなく、仲間がいたからこそ成せるのだと学びました。

さらに、部活動においても私たち後輩への指導だけでなく、自分自身が目指している目標のためにも努力されていました。その後ろ姿で私たちに道を示していただいたように感じています。本当にありがとうございます。

先輩方から教わったことを胸に刻み、より良い学校生活を送られるように尽力します。向陵高校のことは私たちに任せて、先輩方は安心して自分の道を歩んで下さい。しかし、その道の途中で、今の私には想像がつかないほどの大きな壁にぶつかるとは思いません。ですが、私たちに道を示してくださった先輩方なら、きっとその壁を乗り越え、自分の将来のために前進できると思います。



三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心からお祝い申し上げます。冬の厳しい寒さも和らぎ、徐々に春の暖かさが感じられるようになりました。それと同時に先輩方との暖かな日々がよみがえります。私たちが入学したばかりの頃は、この学校の先生や先輩方とうまく話せるのだろうかという不安を抱えながら生活していましたが、先輩方はそんな私たちを暖かく迎え入れて下さいました。そして、チャレンジ講座で初めて先輩方と一緒に活動したとき、楽しそうに活動している姿や、率先して教えあっている姿を肌で感じ、向陵高校に入っ



平成30年度～令和元年度

厳しかった冬の寒さも和らぎ、春の気配を感じられる季節となりました。

本日は、コロナ禍が続いている中、このような素晴らしい式を挙げていただき、感謝申し上げます。また、先程はPTA会長様、校長先生、在校生から温かい言葉をいただき、感謝の思いで一杯です。こうして多くの方々のお蔭で、私たち卒業生は無事、旅立ちの日を迎えることができました。本当にありがとうございました。

この三年間を振り返ると、あっという間に時が過ぎていきました。三年前の入学式が昨日のように感じられます。入学したばかりの頃は、今では考えられないくらいに静かなクラスでした。しかし、日が経つにつれ、たまに先生に注意される程にきやかになっていきました。

クラスで最初に挑んだ行事、運動会。得意、不得意がそれぞれあった中で、勝利という一つの目標に向かって全員が戦いました。優勝はできませんでしたが、クラス対抗リレーで一位を取れたことは今でも思い出として残っています。

二年生になり、新たなクラスメイトとの学校生活が始まりました。不思議と男女関係なく仲良くなるのが早く、すぐに私たちがらしい雰囲気になりました。そして、一番の思い出となったのは、やはり修学旅行です。平和学習として訪れた沖縄。もう少し長く施設の見学をしたかった気持ちがあります。大阪、京都では、見たことのない景色に感銘を受け、クラスメイトと様々な時間を共有できたことに幸せを感じました。

そして、三年生。新型コロナウイルスの影響により、臨時休校になり、一学期の行事も全て中止となってしまいました。楽しみにしていたことがなくなった悲しみが大きかったです。その分、日々の学校生活を大切に、できる範囲で楽しめる文化祭を作り上げようという気持ちが強くなりました。

生徒会では、例年までとは違う新たなことに挑戦したいという思いで、文化祭運営の計画を行いました。やはり、役員同士の話し合いで、ぶつかり合うことも多々ありました。ですが、最終的には、テーマである「和」がふさわしいような文化祭となり、大きな達成感を得ることができました。

私たちは、月日が経つごとに、仲間の大切さを感じるようになりました。クラスメイトはもちろんですが、部活動の仲間、委員会や生徒会の仲間。多くの仲間たちに支えられてここまで成長することができました。また、私たちが成長できた大きな理由は、どんな話でも聞いて下さった先生方のお蔭です。周りの方々の支えがあったから、辛い時も、苦しい時も、笑顔を忘れることなく、過ごすことができました。

そして、一番側で支え、学校に通わせてくれた家族には、ただただ、感謝しかありません。

大人になっていくことへの希望、この制服を脱ぎ、一人、社会へと飛び立っていくことへの不安、卒業という喜び。今、私たち卒業生の胸の中には、様々な感情が渦巻いています。ですが、私たちに、この向陵高校で出会った仲間、先生方という強い味方がいます。そのことを忘れずに、新たな道へと進んでいきます。

最後に、共に巣立っていく仲間へ私の好きな言葉を送ります。
「トランキーク、焦んなよ。」
どんなことが起きても、焦ることなく、自分のペースで歩んでいきましょう。

令和三年三月一日

卒業生代表 関 桃香

